

テーマ4-3

多主体参加型の気候変動適応まちづくりワークショップ手法

— 温熱環境調査・解析と模型制作を組み合わせた実践を通じて —

山崎 潤也（東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻 特任研究員）

真鍋陸太郎（東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻 准教授）

村山 顕人（東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻 准教授）ほか

研究のポイント

- ▶ 暑熱分野の気候変動適応まちづくりに向けた都市デザインワークショップ（以下、WS）手法を考案し、愛知県名古屋市中区の錦二丁目地区にて実践した。
- ▶ 本WSはまちづくり関係者を中心とした多主体参加型であり、参加者による温熱・物的環境調査に基づく適応策の検討、提案内容を模型制作に反映した都市デザイン、成果物を対象とした温熱環境シミュレーションの実施のプロセスに特徴がある。

【研究の背景・目的】

暑熱対策は地区スケールなど小さな単位でも個別具体的に検討していくべき課題であり、地区の物的環境整備に向けても将来的な気候変動の影響を考慮した中長期的な視点を持つことが求められている。そこで、本研究では暑熱分野の気候変動適応まちづくりに向けたWSを考案した。

【研究内容】

本WSでは、参加者が錦二丁目地区の温熱環境の課題を把握し、主に物的環境整備に関する適応策のアイデアを模型制作によって提案することを目的とした。1日目のフィールドワークでは参加者が6グループに分かれ、各々が担当場所のWBGTと表面温度を測定した。2日目のグループワークでは参加者が3グループに分かれ、担当場所に対するアイデアを模型に表現した。後日、制作された模型の3Dモデルを対象とした温熱環境シミュレーションを実施し、提案内容の効果を分析した。

【今後の展望】

本WSの手法を踏まえ、今後は実際に社会実験を通じて適応策の効果を実測・体感するWSの設計を予定している。

【出典】

山崎潤也, 他5名: 温熱環境調査・解析と模型制作を組み合わせた気候変動適応まちづくりワークショップ手法 -名古屋市中区錦二丁目地区における実践を通じて-, エリアマネジメント研究交流会第3回論文梗概集, 2023.7

表: WSの概要と様子

内容	温熱環境調査と模型制作に基づくまちづくりワークショップ
日時	2022年9月10日(土) 13:00-17:00、11日(日) 10:00-15:00
場所	愛知県名古屋市中区錦2-7-7 スペース七番
参加者	現地まちづくり関係者を中心に22名
プログラム	【1日目】 第1部 気候変動に適応するまちづくりのためのレクチャー(70分) 第2部 温熱・物的環境調査のフィールドワーク(80分) 第3部 調査結果の整理と考察(80分) 【2日目】 第1部 都市デザインのグループワーク(180分) 第2部 成果発表(60分)

